

## 2 段組での中間報告のサンプル

システム情報科学部 情報アーキテクチャ学科

m1202147 渡辺 徹

指導教官 未来 太郎

2004 年 10 月 14 日

### 概要

論文作成においては  $\text{\LaTeX}$  を使用するのが望ましいが、近年では事務処理用の Word がその代わりとなっているように見受けられる。今回は、はこだて未来大学においてどの程度 Word や  $\text{\LaTeX}$  が浸透しているのかを 2003 年度の卒業研究から出てくる中間レポートを参考に統計を取ってみた。結果は予想通り Word 人口が圧倒的に多かった。また、この中間報告のサンプルの内容は出たら目であるので、内容的な部分を参考にしてはいけない。

### 1 目的

当大学では卒業研究の中間報告として中間レポートを提出するようになってきている。各自がどのようなアプリケーションを使っているのかを調査することが今回の目的である。

### 2 方法

直接研究生にアンケートをとったわけではなく、ウェブページ上で 2003 年 9 月 10 日までに提出されているレポートを調査対象とした。

### 3 結果

提出されているレポートを大まかに調査した結果が表 1 となる。これは研究生がどのようなアプリケーションで中間レポートを作成したのかを調べた結果である。どうしても判別できないものは‘その他’の項目に入れてある。レポートの最終形態ではなく、原稿を作成する段階で使ったアプリケーションを示している。これらの結果は二次的に入手した情報のため、データに若干の誤りがある。直接アンケートをとって調べればもっと正確な情報が収集できるが、今回は簡易的な形をとった。

表 1 データの分析結果

項目	人数 (人)	割合 (%)
Word	75	45.2
$\text{\LaTeX}$	26	15.6
HTML	54	32.5
Illustrator	4	2.4
OpenOffice	1	0.6
その他	6	3.0
合計	166	100

### 4 考察

以上の結果から、現在 HTML で作成している人物は Word を使う事になるだろう。結果があくまで中間報告である事を考えれば、Word 人口がこれから増えることは明白である。今度の働きかけ次第で当大学の  $\text{\LaTeX}$  人口を増加させることも可能である。

この現象を天下一的のフーリエ変換で解析する。まず、フーリエ変換で関数  $f(x)$  を定義する。この関数  $f(x)$  は変換のための区間を必要とするので、区間を  $[-L, L]$  とする。すると以下の式が定義から